

第2編

第3部 主な審議会等の動き

第3部 主な審議会等の動き

(昭和59年9月～昭和60年9月末日)

審議会等の名称	提言等年月日	提言等内容
将来の医師需給に関する検討委員会	昭和59年11月2日	昭和59年5月以降、医師数問題を多角的に検討してきたが、中間意見として、「差し当たり昭和70年を目途に新規参入を最小限10%程度削減すべき」ことを取りまとめた。
将来の歯科医師需給に関する検討委員会	昭和59年12月19日	昭和59年5月以降、歯科医師数問題を多角的に検討してきたが、中間意見として、「差し当たり昭和70年を目途に新規参入を最小限20%程度削減すべき」ことを取りまとめた。
国立病院・療養所再編成問題等懇談会	昭和60年2月1日	昭和59年10月以降、国立病院・療養所の再編成等に関する基本的考え方について検討を行ってきたが、①国立病院・療養所の再編成の必要性、②国立医療機関の役割と果たすべき機能、③国立病院・療養所の再編成の考え方と推進方策、④再編成による国立病院・療養所の強化、⑤経営合理化などの事項について取りまとめた。
看護制度検討会	昭和60年3月22日 (第1回開催日)	看護職員の資質の向上、看護婦教育の在り方等看護制度の今後の基本的方向を検討するために、昭和60年3月から開催し、61年度末までに検討結果を取りまとめることとした。
家庭医に関する懇談会	昭和60年6月4日 (第1回開催日)	医師と患者の信頼関係を基盤とした望ましい医療を実現していくため、住民の日常の健康管理、健康相談や疾病に対す

審議会等の名称	提言等年月日	提 言 等 内 容
医療機器懇談会	昭和60年6月14日	<p>る適切な診断・治療を十分に行うとともに必要に応じ専門医療機関等へ患者を紹介するなど、医療の継続性の中心となる家庭医（プライマリ・ケア担当医）について、所要の方策を幅広く検討するという趣旨のもとに昭和60年6月から懇談会を開催し、検討を行っている。</p> <p>我が国の医療全体の将来方向に的確に対応した医療機器の研究開発の今後の在り方及び医療機器が安全かつ効率的に使用されるための使用管理の今後の在り方について中間報告がなされた。</p>
中間施設に関する懇談会	昭和60年8月2日	<p>高齢化社会の到来に伴い、要介護老人の著しい増加が見込まれており、その多様なニーズに対応した保健・医療・福祉にわたる総合的な施策・施設体系の確立を図るために、昭和60年4月から「中間施設に関する懇談会」を開催し、8月にはそれまでの検討結果をまとめた「要介護老人対策の基本的考え方といわゆる中間施設の在り方について」報告がなされた。</p>
生命と倫理に関する懇談会	昭和60年9月2日	<p>近時の医学、医療技術の進展に伴う倫理的諸問題について、昭和58年4月以降議論を進めてきた当懇談会は、報告書をまとめ、発表会形式により公表した。報告書では、個別のテーマとして、臓器移植、死を迎える時の医療、脳死、体外受精、遺伝性疾患、医師と患者の関係などの諸問題を取り扱っている。</p>

審議会等の名称	提言等年月日	提言等 内容
老人保健審議会	昭和60年7月18日	老人保健制度の見直しについて、①保健事業、②中間施設、③老人の診療報酬の在り方、④加入者按分率、⑤一部負担等について中間意見を取りまとめた。
医薬品産業政策懇談会	昭和59年10月9日	医薬品産業の振興方策、医療機器産業の振興方策及び化粧品産業の振興方策について総合的な研究開発体制の確立、積極的な海外展開などを内容とする最終報告をまとめた。
医薬品等の基本問題に関する懇談	昭和59年12月3日	良質な医薬品の安定供給及び効率性の確保を基本とし、有効性・安全性に関する情報と密接不可分であること等の医薬品の特質を踏まえ、医薬品行政の在り方、医薬品関係企業の在り方、医薬品使用者の在り方等について貴重な意見の取りまとめを行った。
医薬品流通近代化協議会	昭和59年12月13日	医療用医薬品の取引に関するメーカーと卸売業者のモデル契約要綱の策定のために取引条件の改善の進め方、取引における基本的考え方に関する中間報告を取りまとめた。
血液事業検討委員会	昭和60年8月27日	血漿分画製剤の今後の在り方及び採血基準見直しのための検討をしてきたが、現行200ミリリットル採血に併せ、新たに、400ミリリットル採血の導入と必要な血液成分のみの献血が行えるように、血漿成分採血及び血小板成分採血の導入をはかるなどの中間報告を取りまとめた。

審議会等の名称	提言等年月日	提言等 内 容
中央環境衛生適正化審議会	昭和59年9月25日	理容業、美容業について、利用者の選択の利便を図り、併せて公衆衛生の向上のために、役務の内容の表示の適正化及び損害賠償の実施の確保等に関する事項を内容とする標準営業約款案につき、認可方答申した。
おいしい水研究会	昭和60年4月24日	おいしい水の水質要件を整理し、清浄な水道水源の保全、確保を呼びかける報告を取りまとめた。
食品衛生調査会	昭和60年6月28日	近年の乳製品の多様化、国際規格の動向等を勘案し、牛乳等のうち、常温保存可能品（いわゆるロングライフミルク）について10°C以下の保存基準を緩和する等の答申を行った。
生活環境審議会 廃棄物処理部会	昭和60年7月24日	当部会の「適正処理専門委員会」は、適正な処理が困難な廃棄物の発生を未然に防止するためには、製造業者等事業者による製品等の廃棄物処理が困難とならないかどうかの自己評価が重要であること及びそのためのガイドラインを策定すべきであること等の報告を行った。
中央社会福祉審議会 老人福祉専門分科会	昭和59年12月19日	養護老人ホーム及び特別養護老人ホームの費用徴収基準の当面の改訂方針について、年金制度の成熟等を勘案しつつ、在宅生活者との負担の公平を図る見地から、食費相当額の徴収、徴収限度額の段階的廃止、個別的日常費の見直しの措置を講ずる必要があるとともに、入所者の資産、遺産からの費用徴収などについて

審議会等の名称	提言等年月日	提言等 内容
中国残留日本人孤児問題懇談会	昭和60年7月22日	<p>も今後、できるだけ早い時期に検討すべきであるとの意見具申を行った。</p> <p>孤児関係者の高齢化等に鑑み、孤児の肉親捜しの早期完了及び養父母等に対する扶養費の早急な支払い開始を求めるとともに今後孤児等が大量に帰国することに対応して、日本語指導、生活指導の強化等定着自立促進対策を強力に推進すべきであるとの意見をまとめた。</p>
戦没者遺児記念館に関する懇談会	昭和60年7月25日 (第1回開催日)	<p>日本遺族会から戦没者遺児に対する慰藉の念を含みつつ、平和を祈念するための施設を設立するよう要望があったが、この種の施設(戦没者遺児記念館(仮称))は我が国では初めてのものであり、国の内外への影響等も勘案しながら幅広い視野に立った検討が必要であるため開催した。</p>
年金審議会	昭和60年7月31日	<p>国民年金と厚生年金保険が再編されることに伴い、国民年金審議会と社会保険審議会厚生年金保険部会とを再編統合して、昭和60年7月に設置した。本審議会は国民年金事業及び厚生年金保険事業の運営の大纲を調査審議することを所掌事務としている。</p>